

高等部 D グループ

1 研究テーマ

集団活動におけるコミュニケーション能力を育てる授業をめざして

～生徒の受容・表出する力を培うための指導の在り方（生徒 G を事例として）～

2 テーマ設定の理由

本グループは高等部 1 学年通常の学級の生徒 11 名（1 組 6 名、2 組 5 名）で構成されている。本校中学部を卒業した生徒が 3 名、中学校特別支援学級に在籍していた生徒が 5 名、中学校通常学級に在籍していた生徒が 3 名である。入学当時は内気な面が見られたが、話の合う友達と出会い、自分の考えを積極的に話す様子が見られるようになってきた。しかし、教師と 1 対 1 でのかかわりを求め、集団で活動することが難しい生徒や、自己中心的な話の聞き方をしたり、伝わらないとあきらめてしまったりする生徒などがある。さらに、自分の考えや思いをはっきりと伝えることが難しい生徒もあり、教師の仲立ちを通して、手話や身体表現を用いたコミュニケーションでのやりとりをしている生徒がいる。これらの実態から、相手の意見を最後まで聞くこと、自分の意見を相手に伝えたり、分からないときには相談したりすることを大切に積み重ねていくことが課題といえる。

本グループ研究では、生徒 G を対象として、教師や友達の考えを最後まで聞くための授業づくりに取り組む。G は中学校通常学級からの過年度卒業生であり、自分の考えを伝えることができるが、相手の気持ちを考えずに発言してしまったり、教師の話最後まで聞かずに話を終わらせしまったりするなど、コミュニケーションが一方向的になってしまうことがある。話を聞くことは双方向のコミュニケーションの基礎であり、さまざまな人と出会い、地域社会とつながっていく上で大切な能力の一つであると考え。また、学校生活において用いた手立てを家庭や産業現場等における実習先と共有することで、卒業後の社会参加に向けたコミュニケーション力の拡がりにつながる。このような取り組みを通して、G が集団の中で活動に取り組み、教師や友達の考えを最後まで聞いた上でのやり取りができるようになってほしいと考え、本テーマを設定した。

3 研究仮説

- (1) 合同学習を通して、役割を分担し友達とのやりとりが生まれる。いろいろなやりとりを経験して自分の意見を伝えたり、相手の話を聞いたりすることで自分の好きなこと（やりたいこと）ができるという「必然性・必要性・有効性」を実感できるようになり、相手の話を最後まで聞くことにつながるのではないかと。
- (2) それぞれがもっている生徒のコミュニケーション力の実態や現段階での力を把握することで、役割分担がしやすい学習グループ等の編成、適切な課題の設定による授業実践ができるのではないかと。
- (3) 成果や課題を家庭や産業現場等における実習先と共有することで、卒業後の社会参加に向けたコミュニケーション力の拡がりにつながるのではないかと。

4 研究推進方法及び研究計画

(1) 研究推進の方法

○生活単元学習で研究授業を行う。

○2学級合同の生活単元学習を学期に1回実施し、人とのかかわりについての実態に合わせた学習グループを編成し、自分の意見を伝えたり教師や友達の話の聞いたりすることをねらいとした授業実践に取り組む。

○以上の様子を「現場実習等における記録」に記載し、家庭や実習先等との連携に活用する。

(2) 研究計画

5・6月 テーマ設定・研究計画検討・作成

7月 グループ検討会

8月 中間報告会

12月 グループ検討会、研究授業（第3回校内研究会代表授業） 事後研究会

1月 研究のまとめ（成果と課題）

2月 校内研究全体協議会での報告